

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【公開番号】特開2006-183050(P2006-183050A)

【公開日】平成18年7月13日(2006.7.13)

【年通号数】公開・登録公報2006-027

【出願番号】特願2005-368009(P2005-368009)

【国際特許分類】

C 08 G 18/65 (2006.01)

C 08 G 18/32 (2006.01)

【F I】

C 08 G 18/65 Z

C 08 G 18/32 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月19日(2008.12.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明によれば、有機ジイソシアネート(a2)として使用するのに好適な化合物としては、以下の脂肪族ジイソシアネートが挙げられる：エチレンジイソシアネート、1,4-テトラメチレンジイソシアネート、1,12-ドデカンジイソシアネート、脂環式ジイソシアネート、例えば、イソホロンジイソシアネート、1,4-シクロヘキサンジイソシアネート、1-メチル-2,4-シクロヘキサンジイソシアネートおよび1-メチル-2,6-シクロヘキサンジイソシアネート、さらに対応する異性体混合物、4,4'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート、2,4'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアネートおよび2,2'-ジシクロヘキシルメタンジイソシアネート、さらに対応する異性体の混合物。成分(a2)が、1,4-シクロヘキサンジイソシアネート、イソホロンジイソシアネートおよび/またはジシクロヘキシルメタンジイソシアネートを含むことが好ましい。上に定義されたジイソシアネートは、個々にまたは互いの混合物の形態のいずれかで好適に使用し得る。それらがまた、15モル%まで(イソシアネート成分(a)100モル%に基づく)のポリイソシアネートと共に使用されてもよい。添加されてもよいポリイソシアネートの最大量は、熱可塑的に作業可能な生成物を生じる量である。成分(a2)からは1,6-ヘキサメチレンジイソシアネートを除外する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明の連鎖延長剤(b1)として使用するのに適切な化合物としては、例えば、以下からなる群から選択されるジオールが挙げられる：1,2-エタンジオール、1,3-ブロパンジオール、1,4-ブタンジオール、1,5-ペンタンジオール、1,6-ヘキサンジオール、1,10-デカジオール、1,12-ドデカジオール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、テレフタル酸ビス(エチレングリコール)、テレフタル酸ビス(1,4-ブタンジオール)、1,4-ジ(-ヒドロキシエチル)ヒドロキノ

ン、および 1, 4 - ジ(- ヒドロキシエチル)ビスフェノール A。成分(b1)として使用するのに好適なジオールとしては、例えば、1, 2 - エタンジオール、1, 3 - プロパンジオール、1, 4 - ブタンジオール、1, 5 - ペンタンジオール、1, 6 - ヘキサンジオール、1, 10 - デカンジオール、1, 12 - ドデカンジオールが挙げられ、ジエチレングリコールおよびジプロピレングリコールが好ましく使用される。しかし、(b1)として使用するのに好適なものは、例えば、2 ~ 4 個の炭素原子を有するグリコールとテレフタル酸とのジエステル、例えば、テレフタル酸ビス(エチレングリコール)およびテレフタル酸ビス(1, 4 - ブタンジオール)、ヒドロキノンのヒドロキシアルキレンエーテル、例えば、1, 4 - ジ(- ヒドロキシエチル)ヒドロキノン、およびエトキシリ化ビスフェノール、例えば、1, 4 - ジ(- ヒドロキシエチル)ビスフェノール A である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

好適なポリエステルジオールとしては、例えば、2 ~ 12 個の炭素原子、好ましくは 4 ~ 6 個の炭素原子を有するジカルボン酸と、多価アルコールとから調製されるものが挙げられる。好適なジカルボン酸として、例えば、以下の化合物を挙げることができる：コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、コルク酸(スペリン酸)、アゼライン酸およびセバシン酸などの脂肪族ジカルボン酸、またはフタル酸、イソフタル酸およびテレフタル酸などの芳香族ジカルボン酸。ジカルボン酸は、個々に、または混合物の形態で、例えば、コハク酸、グルタル酸およびアジピン酸の混合物の形態で使用されてもよい。